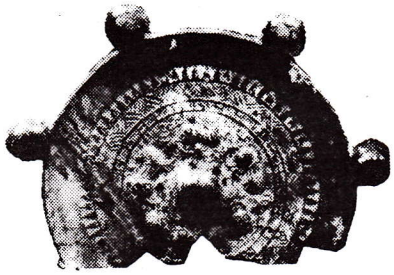
第 40 号　　平成27年 5 月26日

文化財やまと

大和町文化財保護協会発行



七鈴五獣鏡

十四年ぶりの大事業
～島七代天神の祭礼行われる～

会長　佐藤　光一

一〇月一一日～一二日（土、日）島三区七代天神社祭礼が執り行われ、市指定無形民俗文化財「大神楽・やわた踊り」が奉納された。一四年ぶりのことである。

七代天神社と言う社名を聞くと、天神様（祭神は菅原道真）と勘違いされる向きもある。

日本書紀では、天地開闢の最初に現れた以下の七代十一柱の神を神世七代としている。

一代　**国常立尊**（くにのとこたちのみこと）
二代　**国狭槌尊**（くにのさつちのみこと）
三代　**豊斟渟尊**（とよぐもぬのみこと）
四代　**泥土煮尊**（ういじにのみこと）**沙土煮尊**（すいじにのみこと）
五代　**大戸之道尊**（おおとのじのみこと）**大苫辺尊**（おおとまべのみこと）
六代　**面足尊**（おもだるのみこと）**惶根尊**（かしこねのみこと）
七代　**伊邪那岐尊**（いざなぎのみこと）**伊邪那美尊**（**伊弉冉尊**）（いざなみのみこと）

七代天神社には、この内四代の女神**沙土煮尊**と五代の女神**大苫辺尊**を除く天神七代九柱を祭神としている。

明治五年（一八七二）島地区の大火で類焼し、御神体を始め禰宜宅等資料一切焼失し、太神楽・やわたおどりに関する由緒・由来等はすべて不明になった。ただ江戸時代に当地島から現白鳥町二日町の古老が言い伝えており、『白鳥町史史料編』「宝幢坊文書」にも出ている。

①道行き

神楽は「道行き」に始まり、神社前の舞台へ打ち込む。太神楽の順序は、一番　場なら詞、二番　山のうえ、三番　大まか、四番　まさり、五番　やわたおどり、六番　こまか、七番　後ばやし、言い立てでなく吹きついで「帰り岡崎」の曲に入り、入場のときの順序で帰りの道行きとなる。

大神楽の獅子が、お宮に入場する時の猛々しさとはうらはらに、終日舞い踊り楽しんだお宮に、身振りやさしく別れを惜しむ舞い姿は入神の技で、太神楽の圧巻である。

「やわたおどり」は、「大やっこ」四名と「小やっこ」八名の計一二名の役者が、八名の「歌うたい」の歌と、小太鼓、笛、鼓の伴奏に合わせて舞台の上で踊る。歌詞は由緒も意味も不明だが、極めて情緒的で、踊りと共に優雅である。この「やわたおどり」は、太神楽の舞いの間へ一体となって入り舞われる。これは当社独特のもので、他にあまり類例がない。

②やわたおどり

島七代天神社の大神楽は、平成五年（一九九三）三月二八日大和町無形民俗文化財に指定され、平成一六年三月一日郡上郡七町村が合併して郡上市が誕生したのに伴い、郡上市重要無形民俗文化財となった。

祭り当日は好天に恵まれ、氏子を始め各地から大勢の観客を得て、十四年振りの大神楽・やわた踊りを満喫した。

計画から準備・練習、当日の運営等々当事者の皆様のお骨折

七鈴五獣鏡
岐阜県指定重要文化財
時代　六世紀中ごろ（約一五〇〇年前）
管理者　徳永多賀神社

鏡は、写真のように、全体の四分の一が欠損している。白銅製で、鏡面は光沢のある灰色を呈しており、文様のある面は外から鋸刃文帯、連続三角形文帯、偽銘帯があり、その内側に小さな五つに乳と形状不明な五獣を配している。直径一一・四センチ、周囲に七つの鈴があったが、そのうち三個が欠けている。鈴子は小石で、振るとかすかな音を立てる

寺院をまた訪ねたくなる私の秘訣
～仏像の見方を通して～

大井正明

寺院と言えばやはり京都、奈良ですが、岐阜県内でも美濃三十三観音霊場は有名です。そして、郡上にも白山中宮長滝寺など、決して他県に引けを取らない寺院や仏教美術があります。

有名な神社、寺院までには早くから交通が整備されており、北濃にまで伸びる越美南線の敷設には、少なからず信仰への関わりが有ったものと考えられます。

さて、お目当ての寺院に訪観、拝観するにあたり、いくつか心に留めておきたい事柄があります。例えば、寺の名前、住所、山号、宗派、御本尊、開基年号、開山者、寺宝、などです。これらをメモし整理しておくと、他の寺院と似ているところや異なるところがよく分かります。

寺院の堂塔伽藍、庭園、花木、絵画、歴史物語などは、実際に自分自身の目で見ることで、古き寺院の良さを実感することができます。

拝観に当たっては、文化財に手を触れたり写真を撮ったりしないなど、寺院の決まりや一般的な礼儀を守ることが大切です。どんな些細な事でも、住職や係の許可を得てやれば大丈夫でしょう。

寺社に備え付けのパンフレットや説明書は、見どころを簡潔に教えてくれるので、手に取ってご覧になるとよいでしょう。訪問の良き記念には、御朱印を受けられることをぜひお奨めいたします。

▶阿弥陀如来

○御本尊、仏像の種類について

仏像は大別して五つのグループに分けられます。

一 如来　自ら悟りを開いた方
二 菩薩　如来になるため修行し衆生を救う仏
三 明王　如来の化身
四 天部　仏を守る人達
五 声聞　新しい宗派を開いた開祖、僧呂

▶釈迦如来

▶薬師如来

○如来（一の如来とよばれる仏）

大別して、五つの種類に分けられます。

一 大日如来　真言密教の仏
二 釈迦如来　実在した仏教の開祖
三 薬師如来　病や災難から人々を救う仏
四 阿弥陀如来　来世の幸せを約束してくれる仏
五 毘盧舎那如来　奈良東大寺の大仏

▶十一面観世音菩薩

○観世音菩薩

全部で六観音があります。

一 聖観世音菩薩　危難、苦悩から人々を救う仏
二 千手観世音菩薩　千の慈手と千の慈眼で衆生を救う仏
三 十一面観世音菩薩　四方八方あらゆる方向に顔を向け衆生を救う仏
四 馬頭観世音菩薩　威力で仏法に導かせる役割をする仏
五 准低観世音菩薩　仏の母として子授けの力が有る仏
六 如意輪観世音菩薩　物質的、精神的な願望を成就させる仏

観音菩薩

○菩薩

観世音無しのグループ

一 普賢菩薩　行（修行）を代表する仏、釈迦如来の脇侍
二 文殊菩薩　知恵を代表する仏、釈迦如来の脇侍

▶弥勒菩薩

三 日光菩薩　煩悩を照らし、無知を打破する仏、薬師如来の脇侍
四 月光菩薩　優しく慈しみの心を持つ慈悲の仏、薬師如来の脇侍
五 勢至菩薩　衆生の無知を救う仏、阿弥陀如来の脇侍
六 虚空蔵菩薩　知恵と福徳の仏、毘盧舎那如来の脇侍
七 弥勒菩薩　釈迦の救済に漏れた人を救う仏
八 地蔵菩薩　人々の悩みや苦しみを救う仏

▶不動明王

○明王グループ
五如来の化身とも言われています。

▶軍荼利明王

一 不動明王　煩悩をやきつくす
二 降三世明王　貪欲、怒、痴、の三欲を消滅させる
三 軍荼利明王　歓喜天を支配し障害を取り除く
四 大威徳明王　六面六臂六足の姿で水牛にまたがる
五 金剛夜叉明王　金剛杖の威力で人間の欲心を除く
六 愛染明王　愛欲と貪欲をつかさどり、この尊を信ずると他人から敬愛され、災いを変じて福となす
七 孔雀明王　毒虫や害虫を食べる孔雀を神格化し、様々な難を除く

▶増長天

○天部のグループ
一 武神　二 福神　三 女神などが有ります。中でも武神には四天王があり、この像は仏界の四方を守ります。東方は時國天、南方は増長天、西方は広目天、北方は多門天が、守護神として仏を守っています。

○声聞グループ
高僧のことで、釈迦の弟子、日本仏教の各宗派の宗祖、開祖などを指します。
一 天台宗　伝教大師（最澄）比叡山延暦寺 本尊釈迦如来
二 真言宗　弘法大師（空海）高野山金剛峰寺　本尊大日如来
三 浄土宗　法然上人　総本山は知恩院　本尊阿弥陀如来
四 浄土真宗　見真大師（親鸞）本山西派、大谷派　本尊阿弥陀如来
五 臨済宗　栄西上人 本山建仁寺　本尊釈迦如来
六 曹洞宗　道元禅師 本山永平寺　本尊釈迦如来
七 法相宗　八 時宗　九 黄檗宗
一〇 律宗　一一 華厳宗
一二 融通念仏宗　などの宗派が有り、浄土真宗には、正信偈の最後のページに十派の宗派と寺名が記されています。

○仏像の鑑定
五大如来　六観音、菩薩　明王　天部　四天王　その他各種の仏像があります。
鑑定には種類別、作成された時代別、年代、作成された像の材質などにより仕分けされます。

○年代区分
飛鳥時代、白鳳時代、奈良時代、平安時代、鎌倉時代、室町時代、安土桃山時代、江戸時代、現代の九つとなります。

○仏像の材質と作り方
一 金銅造　材質は銅で、鍍金仕上げ
二 塑像造　材質である粘土を練ってつくる
三 脱乾漆造　芯木と麻布、木糞漆を組み合わせてつくる
四 木芯乾漆造　木彫りの型に木糞漆を盛り上げてつくる
五 石造　自然石を切り出し、またはそのままの状態に彫ってつくる
六 かわら造　粘土を素焼きにしてつくる
七 一木造　楠木や桧などの木材一木でつくる
八 寄木造　材は一木造と同じだが、二つ以上の材を寄せ合わせてつくる

○そのほか
印相、手のしぐさ、持ち物、眼の形、耳の形、台座等も鑑定の重要な項目です。
鑑定に当たっては実物、写真、本、等で実感するのがもっとも良い方法だと思います。
また、疑問点はそのままにせず必ず解明することが、鑑定への自信につながることと思います。

▶高澤観音多宝塔

▶高澤観音舞台

最後に、お勧めしたい近くのお寺をご紹介いたします。
（場所）関市下之保　美濃三十三観音霊場
（寺名）高澤山日龍峰寺（にちりゅうぶじ）通称、高澤観音
（宗派）高野山真言宗
（御本尊）千手観世音菩薩
（開祖）両面宿儺
このお寺は、岐阜県の清水寺と言われる程であり、舞台造りと鐘楼、多宝塔が必見であります。ぜひ、ご自身の眼でお確かめください。

春季日帰り研修

金沢の文化と歴史を訪ねて

奥田弘親

平成二十六年度の春の日帰り研修旅行は、四月十一日（金）金沢をテーマにして行われた。

―出発―

朝七時大和庁舎に集合し出発して、大和ＩＣより東海北陸道をひたすら北上し、長大な飛騨トンネル、白川郷を通り抜けて富山県に入った。城端ＳＡで休憩した後、予定外の飛び入りで城端の曳山会館に寄り道した。

この会館の山車はなかなか見事なものであり、山車の後半に料亭の屋形が乗っていて大変珍しいと感じた。この会館を出てから普通道を金沢に向かった。

―妙立寺―

予定の金沢市に入り、寺町の妙立寺に入りました。

案内に従い一巡してみて、大変驚いた。外観は二階建てに見えるが内側は四階建てに匹敵する様な複雑な構造となっている。トリッキーな階段が二十数カ所、様々な目的の室が二十カ所程あり、隠し室としたり隠した落とし穴、妙な明かり取り、抜け穴となる井戸があった。

本堂の屋根上は望楼で見張台としており、城との連絡が可能となっている。まさに複雑怪奇な造りとなっており、忍者寺と云われるに相応しい寺であった。

このお寺は、初代前田利家公のとき日蓮宗に帰依し祈願所としたものを、三代利常公の知略でこの地に移築し多目的に利用される寺とした。

妙立寺本堂

外様大名の雄である加賀藩は、幕府からはいつも睨まれていたため、北方は浅野川、南方は犀川で遮らせ、その内側城付近には五十余の寺院等を建てた。福井方面からの侵略に備えては犀川南西の寺町、野町の丘陵地には軒並寺を建てその数は七十余があり妙立寺はその中心的な存在であった。

尚、北方の浅野川の北にも四十数カ所の寺院があり、城の周辺には合わせて百七十余の寺院をめぐらせた。

常時は信仰の対象として管理者を置いたが、一端紛争が起きた場合には食料等を備蓄し大勢の宿泊、炊事の設備を整えた。小さな出城としての役目を持たせ、金沢城の守りをより堅固なものとしたのである。

―香林寺―

二つ目の寺香林寺は願掛け寺とも云われ、妙立寺と共に三代利常公が建立したものである。本尊の釈迦無尼仏と共に本堂内に、安産、子授け、子供さんに関する願いを叶える地蔵さんが祭られている。お子抱き地蔵とも呼ばれ、多くの方がお参りをされるそうだ。

尚、このお寺の裏の庭園には「開運霊薬不動尊」が坐し、その参道には「願掛け十二支」と「十六羅漢像」が配置されている。願いを掛けるときは、自分の十二支を通って三度幸福の道を廻り、最後に「不動明王」にお参りすれば願いが叶うと云われている。

また、堂内横手には加賀友禅の作家で人間国宝の「木村雨山」さん作の「花鳥風月」を描いた短冊や色紙八十点ほどが長押（なげし）等に掲げてある。それに庭には秋になると白い彼岸花が咲くそうである。

―兼六園―

城の真向かいにある兼六園入り口付近の堤亭で昼食を採り、各自で園内を散策した。入園はお年寄りは無料であって、何度かの入園で池の廻りを一周して松や桜の花を見た。下の茶店でソフトクリームを食べながらバスを待った。

兼六園霞ヶ池

―武家屋敷跡野村家―

この武家屋敷は、長町の昔は濠の一部であった水路沿いにあり、水は滔々と流れていた。

この野村家は、初代利家公と共に金沢城に入城した時からの直臣で、代々千石程の禄高の奉公職等を歴任した。約千坪の屋敷を拝領している名家であり、明治まで十一代続いた。

現在の屋敷跡は、加賀藩の支藩大聖寺藩内の橋立村の北前船の船主久保田彦兵衛の豪邸の一部を移築したものである。

誠にこじんまりとしたものながら、藩主を招いた時の上段の間と謁見の間とが、格式を重んじ上品な装飾と贅沢な作りとなっている。特に、小さいながら庭園は高い評価を受けていて、狭いながら見事な配置であり一見の値うちがあった。

―近江町市場―

金沢市民の台所を預かると云う市場で、店舗数、品物ともに豊富である。ただ市中の店舗の寄せ集めであり少々魅力に欠けている。海辺の店や山間の直売所とは違い、最近は観光地の一つとなってしまっているのが残念である。

本日の日帰り研修最後の立ち寄り箇所であり、二、三の品を買い求め土産とした。

秋季日帰り研修

西美濃の歴史と文化を訪ねる

田口勇治

文化財保護協会の旅行は、仕事の都合で何年か振りの参加であった。車内は満席であり、中でも神路地区の方の参加が多いのに驚いた。

大和インターから大垣インター、そして最初の見学地大垣城へ、こんなに近いのに今まで訪れる機会がなかったことに、我ながら不思議な思いであった。大垣城は戦災で焼失するまでは国宝であり、郡上八幡城のモデルと成ったこと、戸田家十万石は郡上とも縁が深いことは知っていたが、「天気よければ…」の歌で有名な太鼓は、ピカピカの楼閣を登った四階の天守閣にあった。

大垣城

戸田家二三五年間は太平の世であったが、一一代続いた歴代城主の内、寛政二年から文化三年まで、幕府の老中職を務めた七代戸田氏教公時代は、特に隆盛を極めたようで、強調した展示がなされていた。

勿論、戸田氏入封以前から大垣城の歴史は古く、西暦一五〇〇年（明応九年）竹脇尚綱に始まって、二四氏が治め、大垣十万石と成ったのは、二五代戸田氏鉄からのようである。

中でも、関ケ原合戦前、石田三成ら豊臣方西軍がその本拠地としたことから、島左近らの戦略は有名である。

関ケ原合戦後の大垣城は「戦いの城」から「行政の城」と生まれ変わるが、木曽川を始め西美濃と輪中地帯は、永長に渉って水との闘いであり、歴代の治水事業が成功したことに因って、今日の大垣がある。

天守石垣二メートル程上がった所に洪水位を示す線が残されており、城の上から見渡せば、岐阜から養老まで一面の海だったと記されてあった。

また、戦災で焼失した貴重な国宝の城の写真を見て、戦争の愚かさを胸に刻みながら堀の橋を渡った。

散策の道すがら随所に清らかな湧き水があり、「自販機の水は売れないだろうなー」などと話しながら、戸田氏の菩提寺へ立ち寄り、『奥の細道結びの地記念館』へ向かった。

当館は近代的な設計で、芭蕉の「奥の細道」を余すところなく辿ることができる。三D映像のダイナミックさ、ハイテクを駆使した展示は圧巻で、時間の制限がなければと残念であったが、再訪問することを心に誓って外に出た。

南宮大社

昼食後、垂井町へと向かう。南宮大社は、何回か参拝したが、何度訪れてもその壮大さと華麗さは感激の一言である。特に朱塗りの程好く時を刻んだ様子に、重要文化財の威厳を感じる。

回廊から垣間見る本殿はまた素晴らしく、ついつい他の人をも誘ったりした。車窓から南宮大社の大鳥居を見ながら、北部エリアへと向かった。

大河ドラマでブームとなった竹中半兵衛の菩提寺へ進む。観光客が多い様で、便乗した物産展の旗が目に付くようになってきた。

三六歳の若さで病没した半兵衛の菩提を弔うため、その子重門が墓石を移したのが始まりで、竹中氏と家臣の墓石が建立されていた。

途中、竹中半兵衛の屋敷門があった。邸の部分は、現在は幼稚園となっていたが、門の構えが凄い。両側に野面積みの石垣があり、その中を奥行きが四～五メートルの分厚さで、裏側から階段状に登れるようになっていた。

竹中半兵衛の屋敷門跡で

門は均整で重厚であり、この様な門はあまり見たことがなかったので感激した。門前で研修旅行の記念写真を撮ってもらったのは幸いであった。

最後の日程は、伊吹山ドライブとなっていた。だんだん天候が悪くなり実施が案じられたが、結局予定通り行うこととなった。途中、関ケ原合戦場を左車窓に眺めながら進んだ。西軍石田三成の本陣跡には、数本の幟がはためいていた。

伊吹山ドライブは運転手さん泣かせ、岐阜と滋賀の両県を跨いで入ったり出たりしながら、標高一二六〇メートルの駐車場に着いた。

ここから一三七七メートルの山頂までの高山植物は、六月頃が「百花繚乱」とのことであった。寒さと風の強さは予想以上であったが、濃尾平野を一望し北側には姉川の合戦場や賤ヶ岳などを遠望できたことに大満足した。

久し振りに有意義な一日となり、全員が無事に家路に着けたことに感謝する。

文芸欄

短歌

地下足袋

井俣初枝

踏ん張りがきくからいいと地下足袋を履きて春日をポンと蹴ちらす
（「岐阜歌人クラブ短歌大会」一席入賞作品）

ぽあぽあと白雲空にあらわれて籠る私の脱皮うながす

地下足袋をはくことしばし戸惑えりほととぎす鳴く蒼きひと刻

地下足袋の足裏に入り来る感覚を全身動の要と決めた

シンフォニー聞くがに色をかえてゆく葉に偽りのなき清しさよ

地下足袋にひら鍬一丁あればいいずんずと冷えの迫りくる朝

一つずつはずす鞐（こはぜ）に思い馳せ植えし桧林は葬場となる

素朴なれど土の匂いと色が好き　蒼き地球のきゅうりを食うる

ぱんぱんと地下足袋はらう秋の日の土の匂いは私のエネルギー

地下足袋も土も真っさら春を待つすべて描きし畑のデザイン

神々の森

山内敏子

石徹白の虚空蔵菩薩訪ねれば著莪（シャガ）の花群静寂誇る
（石徹白の大師堂）

春うらら霊峰白山残雪の世のうつろいを史家と見つめる

薪能は明建神社の風物詩桜の妖精常縁の里
（明建神社）

古代蓮長滝神社は灯をともすあこがれ通うふみづきの朝
（長滝神社）

深山路の新宮神社へ初参り神仏習合古来のあかし
（那比神宮）

弾けるように

青木ユリ子

冬籠り余儀なくされて二月尽雪解の間より青草のぞく

ひもじさに夜毎訪い来る鹿の群れ無気味に光る数多のまなこ

春立てば雪積む中に住みいても光やさしく窓にさし込む

約束を果たす如くに季くれば弾けるように梅桜咲く

迷いつつ少し派手めな赤着れば若々しいと友があと押し

母を偲ぶ

石神堯生

「年だから」吾がふがいなき言い訳けは白寿の母の叱責受ける

ストーブ点け風呂から上がりし母を拭く膝に火傷を負わせしを悔い

「あと一週間」あり得ぬことを看護師はいふ
　九十九歳で生きているのに

「また来るよ」意識無きまま眠りし母妻の言葉に突然目を開く

実感の無きまま母は逝きにけり告げたきことまだ山ほどあるに

俳句

くちなわ

筧明代

花の芽を起す日射の無かりけり

ライラック香り含みし雨滴

秋の風石仏二体寄り添ひて

家を守るくちなわなれど恐れおり

百歳の愚痴も聞いてや寒見舞い

山櫻

遠藤富貴子

雨の彩払いて日を吸ふ山櫻

入相の鐘に覚ゆる花冷えに

触れて散る花はさみしき紫荊（ハナズオウ）

労（ねぎら）いの夫の花束バラの花

永き日や犬をなだめて独り住み

古今の里春

山内敏子

陽だまりの池のほとりの節分草

咲きそめし東氏の館春紫苑

山荘の道を灯せり藪椿

都忘れ古今の里のこむらさき

山吹草明建神社金散らす

平成26年度　事業報告書

四月一一日（金）　春季日帰り研修　金沢市（寺町・兼六園・武家屋敷・近江市場）
　　参加者二六名
五月　二日（金）　第一回岐阜県文化財保護協会　理事会
　　七日（水）　第一回郡上市文化財保護協議会理事会（二六年度諸計画等）
　　一七日（土）　第一回執行部会（大和庁舎三〇二会議室）
　　新年度への取り組み
　　「文化財やまと」編集委員会　原稿の進捗状況の確認等
　　二〇日（火）　岐阜県文化財保護協会　総会（於：シンクタンク）
　　二一日（水）　第一回役員会（大和庁舎二〇一会議室）
　　平成二六年度への取り組みについて
　　（内容：一六日の執行部会に同じ）
　　二二日（木）　「文化財やまと」最終編集会議
六月二〇日（金）　平成二六年度総会、（大和庁舎　防災研修室）
　　①平成二五年度会務・決算報告　②平成二六年度事業・予算の承認
　　③理事の交代について　④会員拡大への取り組みについて
　　⑤講話「地域の文化財発掘と保存」佐藤光一　会長
　　（故青木圭一さんの剣絵図を参照しながら）
　　会報「文化財やまと」三九号発刊（発行部数三〇〇部）
七月　七日（月）　第二回役員会（奉仕作業への取り組みについて）
　　一七日（木）　第二回郡上市文化財保護協議会理事会（文化財愛護標柱について）
　　大和町では、西念寺の全標柱を「文化財愛護標識板」にまとめる。
　　二七日（日）　東氏館跡庭園池泉清掃・阿千葉城跡清掃（剣上地区参加）
八月　七日（木）　七日祭・薪能
九月　一日（月）　第二回執行部会
　　一八日（木）　郡上市文化財保護協議会「秋の文化財探訪の旅」（徳川美術館ほか）
　　一九日（金）　西念寺文化財愛護標識板設置　研修部会（秋季日帰り研修について）
一〇月　三日（金）　第三回役員会（平成二六年度　秋季日帰り研修の計画・実施について）
一一月一二日（水）　平成二六年度秋季日帰り研修（大垣市、垂井町、伊吹山）参加者二六名
　　一九日（水）　平成二六年度郡上市文化財保護協議会「市内文化財めぐり」
　　（於：八幡町）
　　二一日（金）　第三回執行部会　第四回役員会について、その他
一二月　六日（土）　第四回役員会、事業・会計中間報告、当面の課題について、引き続き懇親会
二月一〇日（火）　研修部会（平成二七年度春季研修計画）
　　二三日（月）　第五回役員会（平成二七年度春季日帰り研修、役員改選、事業・会計報告）
三月一七日（火）　岐阜県文化財保護協会　理事会（於：シンクタンク）
　　二四日（火）　第三回郡上市文化財保護協議会理事会

平成27年度　事業計画（案）

四月　八日（水）　春季日帰り研修
　　（歴史ロマンに包まれた浜松湖北の古刹を訪ねて）参加者二七名
　　二三日（木）　「文化財やまと」四〇号編集委員会　原稿の進捗状況の確認
　　二四日（金）　第一回郡上市文化財保護協議会理事会（二七年度諸計画等）
五月　一日（金）　第一回執行部会（大和庁舎三〇二会議室
　　新年度への取り組み
　　平成二七年度事業計画・予算案について
　　一四日（木）　第一回役員会（大和庁舎三〇三会議室）
　　平成二七年度への取り組みについて
　　「文化財やまと」最終編集会議
　　二九日（金）　平成二七年度総会、（大和庁舎　防災研修室）
　　③平成二六年度会務・決算報告
　　②平成二七年度事業・予算の承認
　　③役員の交代について　④会員拡大への取り組みについて
　　⑤講話（佐藤光一氏）
　　会報「文化財やまと」四〇号発刊（発行部数二〇〇部）
七月　二日（木）　第二回執行部会
　　九日（木）　第二回役員会（奉仕作業への取り組みについて）
　　二五日（土）　東氏館跡庭園池泉清掃・阿千葉城跡清掃（剣上地区参加）
八月　七日（金）　七日祭・薪能
一〇月一五日（木）　研修部会（秋季日帰り研修について）
　　二一日（水）　第三回執行部会
　　第三回役員会（平成二七年度　秋季日帰り研修の計画・実施について）
一一月一一日（水）　平成二七年度秋季日帰り研修
　　二六日（木）　第四回執行部会
一二月　五日（土）　第四回役員会、事業・会計中間報告、当面の課題について、引き続き懇親会
三月一〇日（月）　研修部会（平成二八年度春季日帰り旅行の計画）
　　第五回執行部会
　　二三日（水）　第五回役員会（平成二八年度春季日帰り研修、事業・会計報告）
　　以下未定
　　第二回郡上市文化財保護協議会理事会（文化財愛護標柱について）
　　郡上市文化財保護協議会「秋の文化財探訪の旅」
　　平成二七年度郡上市文化財保護協議会「市内文化財めぐり」
　　（於：美並町）
　　第三回郡上市文化財保護協議会理事会

会員名簿（順不同）

平成27年5月現在

● 顧問		
籏　勝美	(剣)	88－2031
日置敏明	(大間見)	88－2254
■ 剣		
田中和久	(理事)	88－2200
田中康久		88－2200
森前登志子		88－3479
小池祐二		88－4064
小池圭子		88－4064
河合　恒	(理事)	88－2358
河合　尚		88－2304
日置智夫		88－2730
田代全廣		88－3835
田代寿子		88－3835
加藤典子		88－3687
河合利雄	(理事)	88－3520
加藤文蔵		88－2802
佐藤光一	(名誉会長)	88－3201
佐藤八重子		88－3201
山内　博		88－2886
山内悦子		88－2886
村瀬喜八		88－2128
村瀬方彦		88－2008
日置武雄		88－2303
■大間見		
大野一道	(理事)	88－2230
大野紀子		88－2230
青木ユリ子		88－3477
村井紀幸	(理事)	88－2323
池田充彦	(理事)	88－2796
小野江　勉		88－2725
清水一作		88－3086
藤代順行		88－3060
松井賢雄	(理事)	88－3991
坪井由佳子		88－3990
■万　場		
桑田守夫		88－2514
石神堯生	(理事)	88－2413
畑中真澄		88－2441
稲葉和巳		88－2503
黒岩弘己		88－2458
小倉義明		88－3224
小倉津油子		88－3224
桑田洋一		88－2414
青地正男		88－2447
大井正明	(理事)	88－2894
井俣初枝		88－2758
筧　伸雄		88－2532
筧　明代		88－2532
大井峰雄		88－2893
籏　清子	(理事)	88－4170
大中登志枝		88－3624
■徳　永		
山内孝一	(理事)	88－2616
山内敏子		88－2120
細江幸久	(書記)	88－4157
遠藤富貴子	(理事)	88－4141
遠藤賢逸		88－4141
村瀬弥治郎		88－2602
渡辺睦子		88－2076
■神　路		
山田正代	(理事)	88－2114
臼田浄円		88－3461
羽生　清		88－2271
山田味代子		88－2844
山田敬子		88－2336
臼田金市		88－3883
臼田路子		88－3883
野田加奈枝		88－3460
山田幸子		88－2693
■ 牧		
齋藤武生	(会長)	88－3922
齋藤純子		88－3922
滝日一正		88－3064
松森幹男		88－3919
遠藤伝司	(監事)	88－3934
日置光一		88－3001
瀧日千代美		88－3059
三浦泰治	(理事)	88－9080
粟飯原明子		88－2362
日置人司		88－2662
滝日準一		88－2705
尾藤　知		88－2353
田口勇治	(理事)	88－3950
遠藤高真		88－2890
野田嘉明		88－3043
金子政子		88－3426
早瀬ふみ子		88－3327
日置康夫		88－3788
■栗　巣		
筧　政之助	(理事)	88－4031
島崎増造	(監事)	88－2236
野田恵光		88－4027
増田洋子		88－4041
■古　道		
細川　優	(理事)	88－2861
清水克巳		88－2862
金子徳彦	(副会長)	88－3063
遠藤弘隆		88－3976
■名皿部		
佐尾チドリ	(理事)	88－3544
有代眞一	(理事)	88－3791
■落　部		
常平　毅	(副会長)	88－3837
常平真由美		88－3837
本川喜代士		88－3833
本川清子		88－3833
柴垣　諭		88－3239
柴垣香久子		88－3239
■ 島		
奥田昌明		88－2520
森藤雅毅	(理事)	88－2684
奥田弘親		88－2431
木島　清		88－3304
森藤龍史		88－2154
森　憲司	(会計)	88－2554
田中　篤		88－2792
山田長次		88－3648

正会員	92名
家族会員	14名
合計	106名

◆◆◆ 平成26年度 決算報告書 ◆◆◆

（収入の部） （単位：円）

項目	決算額	摘要
前年度繰越金	6,041	
会員会費	202,000	正会員2,000円×94名 家族会員1,000円×14名
役員研修会費	13,000	役員会費13名
助成金	81,000	郡上市より
雑収入	2,013	ご寄付 預金利息
合計	304,054	

（支出の部） （単位：円）

項目	決算額	摘要
総会費	4,043	お茶　感謝状額
会議費	4,906	執行部会　運営各部会 役員会
会議費小計	8,949	
会報発行費	58,320	「文化財やまと39号」300部
奉仕活動費	10,493	文化財清掃奉仕作業 傷害共済
役員研修費	21,406	資料代　弁当・お茶代
文化財保護費	15,800	七日祭・赤保木祭奉納 明建神社・七代天神社祭奉納
研修旅行費	29,090	春・秋季日帰り研修補助
記念事業積立金	40,000	
事業費小計	175,109	
消耗品費・事務費	6,980	ＤＶＤ寄贈29ヶ所 用紙代・印刷代
通信費	16,927	はがき・切手　メール便送料
事務局費小計	23,907	
負担金	50,000	県協会：30,000 市協議会：20,000
予備費	40,000	供花　総会表題幕作成
次年度繰越金	6,089	
合計	304,054	

◆◆◆ 平成27年度　予算（案） ◆◆◆

（収入の部） （単位：円）

項目	予算額	摘要
前年度繰越金	6,089	
会員会費	200,000	正会員2,000円×93名 家族会員1,000円×14名
助成金	81,000	郡上市より
雑収入	911	預金利息、他
合計	288,000	

（支出の部） （単位：円）

項目	予算額	摘要
総会費	5,000	お茶
会議費	5,000	執行部会　運営各部会 役員会
会議費小計	10,000	
会報発行費	60,000	「文化財やまと40号」200部
奉仕活動費	10,000	文化財清掃奉仕作業 傷害共済
文化財保護費	15,000	七日祭・赤保木祭奉納 文化財標柱設置
研修費	80,000	春・秋季日帰り研修補助 役員研修
記念事業積立金	30,000	
事業費小計	195,000	
消耗品・事務費	10,000	用紙代・印刷代
通信費	15,000	はがき・切手代　便送料
事務局費小計	25,000	
負担金	20,000	市協議会：20,000
予備費	38,000	
合計	288,000	

平成26年度の歳入・歳出処理について監査を行った結果、適正に処理されていました。

平成27年５月10日

監事　島崎増造　　滝日準一

編集後記

会員の皆さんの寄稿により「文化財やまと」四十号が完成しました。

さて、最近の新聞紙面では各地で文化財建物に油のようなものを振りかけるという心ないいたずら事件があったことを伝えています。

私たち文化財保護に関わるものからすれば、何とも罰当たりなことであり、誠に残念な思いです。一人でも多くの人たちに、先人の残した技術や精神の豊かさを伝え、文化財保護の意識を高めていくことの必要性をより一層強く感じます。

その点、佐藤氏の島七代天神社太神楽についての解説はその価値を実感させてくれます。無形な文化財だけに、伝えていかれる方々の熱意にもただただ敬意を表します。

大井氏の仏像の見方の寄稿は文化財を鑑賞する上で大いに参考になります。各地の仏像を巡ってみたいという意欲に駆り立てられた方も多いのではないでしょうか。

日帰り旅行紀行文や文芸欄に寄稿して頂いた多くの方々に心より感謝申し上げます。

（幸久）

「文化財やまと」第四十号　平成二十七年五月二十六日発行　発行者／大和町文化財保護協会　代表者／佐藤光一　印刷者／白鳥印刷